

Light It Up Blue

MUKOJO!2026

～ 武庫女を青く照らそう! ～

ブルーライトアップ

市民公開シンポジウム

2026年4月2日(木) — 8日(水)

会場 ▶ 中央キャンパス 研究所棟

研究所棟がブルーにライトアップされます。
SNSで広くご発信ください。

2026年3月28日(土) 13:00-16:30 (受付 12:30より)

入場無料(会場定員100名・先着順) 要事前申込

会場 ▶ 武庫川女子大学中央キャンパス 公江記念館地下1階大講義室

ハイブリッド(会場+Zoomによるオンライン・ライブ配信)により開催予定です。
会場・オンラインともフォームからの事前申込が必要です。

*新型コロナウイルス感染症などの状況によりオンライン開催のみとなる可能性があります。

そうだ、学校に呼ぼう! 学校に行こう!

～ 神経発達症支援のための教育と医療・療育のリエゾン～

4月2日は世界自閉症啓発デーと国連で定められ、その日から1週間の発達障害啓発週間、Light It Up Blueとして世界中の主なランドマークが青くライトアップされます。武庫川女子大学では、2019年から毎年、ライトアップと市民公開講座を、2025年からは市民公開シンポジウムとしてリニューアルし、継続しています。

今回のテーマは、DCD(発達性協調運動症)をはじめとする神経発達症に対する学校作業療法士/理学療法士(School OT/PT)の活用についてです。近年、神経発達症の特性があり、適切な支援を必要とする児童生徒が年々増加しています。子どもたちは多くの時間を学校で過ごしますが、学校のほとんどの動作には協調という脳機能が必要であり、また、DCDは体育や図工・家庭科・音楽などだけでなく、算数をはじめとする多くの学習にも深く関係しています。海外では学校における作業療法士/理学療法士の神経発達症への支援が制度化されており、また、日本でも、2005年に文科省が推進するように答申していますが、実際は、ほとんど進んでいないのが現状です。このシンポジウムを通じて、作業療法士/理学療法士が学校でできること、そのメリットや課題などについて考えていきたいと思っています。多数のご参加をお待ちしております。



基調講演

DCD(発達性協調運動症)に学校で専門家が関わる意義 | 武庫川女子大学 教育総合研究所/大学院 臨床教育学研究科・教授 中井 昭夫

シンポジウム

届けたい教育をみんなに～多職種で“できる”をデザインする実践～ | YUIMAWARU株式会社こどもセンターゆいまわる代表 仲間 知穂

学校現場で働く理学療法士 | 京都府立舞鶴支援学校 自立活動担当・理学療法士 春田 大志

学校で理学療法士が神経発達症に関わる際の課題とニーズ | 大阪リハビリテーション専門学校/武庫川女子大学大学院 松永 甫



◀ 申込フォームはこちら

必要事項を入力し、送信してください。受付確認メールを送信いたします。なお、いただいた情報は、今回の市民講座のご案内にのみ使用し、厳重に管理いたします。

主催

武庫川女子大学大学院 臨床教育学研究科

問い合わせ先

武庫川女子大学教育総合研究所

MAIL

rinkyo@mukogawa-u.ac.jp

講師プロフィール



中井 昭夫(なかい・あきお)

小児科専門医、子どものこころ専門医、公認心理師、臨床発達心理士。1986年福井医科大学を1期

生として卒業、1991年 同大学院博士課程修了(医学博士)。福井医科大学小児科助教、福井県こども療育センター主任医長、福井大学子どものこころの発達研究センター特命准教授、兵庫県立子どもの睡眠と発達医療センター副センター長などを経て、2018年より現職。日本学術会議連携会員、国際DCD研究・支援学会(ISRA-DCD)日本代表委員、日本DCD学会、日本子ども学会、日本赤ちゃん学会、日本発達神経科学会の各理事などを務める。DCDに関する主な著書に『発達障害児支援とアセスメントのガイドライン』(2014 金子書房)、『発達性協調運動障-不器用さのある子どもの理解と支援-』(2019 金子書房)、『発達性協調運動障害(DCD)の理解と支援』(2019 丸善出版)、『イラストでわかるDCDの子どものサポートガイド～不器用さのある子の「できた」が増える134のヒントと45の知識～』(2022 合同出版)など多数。



仲間 知穂(なかま・ちほ)

作業療法士。回復期リハ病棟や養成校での勤務を経て、2009年よりボランティアで学校

作業療法を実践。2016年に「こども相談支援センターゆいまわる」、2020年に福祉型児童発達支援センター(南風原町)、2024年には関西拠点を開設。地域・学校・行政の連携による学校作業療法を展開するほか、年間30回を超える講師活動を全国で行う。2025年度はこども家庭庁「アウトリーチ支援に関する調査研究」検討委員およびNISE専門研修講師を務める。著書に『学校に作業療法を:「届けたい教育」でつなぐ学校・家庭・地域』(2019 クリエイツかもがわ)、『「届けたい教育」をみんなに』(2023 クリエイツかもがわ)他。



春田 大志(はるた・たいし)

理学療法士、京都府立舞鶴支援学校 自立活動担当・理学療法士。

2000年京都大学医療技術短期大学部理学療法学科卒業後、京都府立学校の実習助手(内部専門家)として向日が丘養護学校に勤務。2010年宇治支援学校開校準備室、2011年宇治支援学校を経て、2023 年より現職。主な著書に『イラストでわかるDCDの子どものサポートガイド～不器用さのある子の「できた」が増える134のヒントと45の知識～』(2022 合同出版)。



松永 甫(まつなが・はじめ)

理学療法士、大阪リハビリテーション専門学校 理学療学科専任教員、武庫川女子大学大

学院臨床教育学研究科修士課程。2014年帝京大学福岡医療技術学部理学療法学科卒業。長崎県佐世保市で整形外科疾患などの臨床経験後、2021年より現職。理学療法士養成課程で教鞭をとりながら、小学校や特別支援学校にて、運動機能予備調査、運動指導、また、学校協力員として児童の支援・相談を行っている。現在本学大学院にて、教育と医療のリエゾンに関する課題やニーズに関する研究を、西宮市教育委員会、日本小児理学療法学会の協力を得て行っている。

案内地図

鳴尾・武庫川女子大前駅から公江記念館まで、徒歩10分程度です。正門からお入りいただき、学内歩道橋を渡り、右手の建物の地下1階が会場となります。

お願い

駐車場・駐輪場はご利用いただけません。
公共交通機関をご利用ください。
ご来学時は正門をご利用ください。
※他の門扉は閉鎖しております。

